

工法・構造

基礎

ベタ基礎 & 基礎配筋

建物荷重を地盤と「面」で接することにより、均一に伝えやすい工法です。建物の下全面のコンクリートスラブは、地盤からの湿気対策やシロアリ侵入の対策としても、建物の耐久性向上に役立っています。またベタ基礎には独自のアンカーを設置。フラット35 技術基準(布基礎)で10mmの鉄筋を30cm 毎に配筋するところ、13mmの鉄筋を20cm 毎に配筋しています。基礎は建物の荷重を伝える重要な部分で、構造設計が基礎配筋にも反映されています。

構造

2x4って、どんな意味？

2x4(ツーバイフォー)とは、主に北米において発展した木造住宅工法の建築工法の名前です。正式な名称として「枠組壁工法」と呼ばれます。国内では通称2x4工法と呼ばれ、製材で組まれた枠組に構造用合板などを下張りした壁が相互に釘や金具で緊結され、建築物全体を一体の箱型にして組み立てられ建物としては非常に強固なものとしているのが特徴です。枠組材の木材寸法は厚さ2インチx幅4インチ(乾燥材で38×89mm)のサイズを基本に多く使われていたため2x4(ツーバイフォー)と呼ばれるようになりました。現在ではアメリカ、カナダの木造住宅の90%以上が2x4工法であり、ヨーロッパをはじめ世界各国に普及しています。

耐震について

構造用合板を直接打ち付けた耐力壁および剛床で建物を強固に一体化しているため、耐震性・耐風圧性にとても優れています。特に耐震性については、兵庫県南部地震および新潟中越地震などで、建物の新旧を問わず、ほとんどの建物で大きな被害を生じなかったことから証明されています。

健康

人体への影響は？

人体に悪影響を及ぼすホルムアルデヒドなどを含む加工木材などをJIS:JAS JIS:JAS規格指定の基準をクリアした商品(F)を使用することにより人体にも環境にも優しい住宅を提供いたします。

バリアフリー

高齢化について

高齢化にともない、住宅もお年寄りのことを考慮した建物をご提案いたします。(部屋の配置・段差の解消・手摺りの設置など)

施工の流れ(仕様により工事・工事内容は異なります)

STEP1
配筋



STEP2
基礎



STEP3
土台敷き



STEP4
フレーム



STEP5
屋根



STEP6
外壁



STEP7
完成

